

2019年7月26日5時限

時間：80分 学生一人につき問題1枚 答案用紙1枚 持ち込み不可

授業科目：中国経済論 担当者：丸川知雄

### 試験問題

1. 中国は今後、資本を毎年6%ずつ増やし、労働はずっと増えず(0%)、全要素生産性(TFP)を毎年3%ずつ高めると予想する。では、中国の経済成長率(GDP成長率)は何%になると予想されるか？ 労働分配率が0.5だとして計算しなさい。

$$6\% \times (1 - 0.5) + 0\% \times 0.5 + 3\% = 6\% \quad \text{答え } 6\%$$

2. 次の設問のなかから3つ選んで答えなさい。

①計画経済とはどのような経済か説明しなさい。

中央政府が国内で生産される工業製品や農産物について計画を立て、企業や農民がその計画に基づいて生産を行うような体制である。部門の間で生産量がバランスするように投入産出表(物量バランス表)が作られて、各種の製品の生産量が定められ、企業や農民に対する指示は物量の単位で与えられる。通常は工業企業は国有企業であり、農民も集団農業や国営農場に組織されている。国民の消費も計画によって統制されており、食料など多くのものの購入は配給制がとられ、金銭があれば自由に買えるものは限られている。

②中国の経済改革の進め方にはどのような特徴があったか説明しなさい。

ロシアや東欧が計画経済を一気に破壊して市場経済への移行を強行したのに対して中国は非常に長い時間をかけて漸進的に改革を進めたところに特徴がある。まず農業において集団農業をやめて農家経営請負制を導入し、個々の農家が自由に農業ができるようにした。しかし、農家に土地の所有権は今日まで与えられていないことが示すように、一気に資本主義的な農業に転換したわけではない。農業の改革が一定の成果を上げたのちは工業(国有企業)の改革に着手したが、それも計画に基づいて生産する部分を残しつつも、企業が自由に経営できる部分を徐々に増やし、最終的にはすべて自由にした。但し、国有企業の民営化はいまだ道半ばである。中国の経済改革の最初の十数年間は改革の最終目標さえ定まらず、現実の進展に合わせて目標が徐々に変化していった。

③中国の戸籍制度とはどのような制度か説明しなさい。

1950年代に農村から都市への移住が進んだのを食い止めるために、1958年に国民を農業戸籍と非農業戸籍(都市戸籍)に二分する戸籍制度が導入された。農業戸籍を持つ人々はか

つては人民公社の社員として農業に従事することが定められていた。現在でも農業戸籍をもって生まれれば農地の割当を受けることができることになっている。一方、都市戸籍を持つ人々は都市に居住して、食料や住宅の配給を受け、学校を卒業すれば都市での職があてがわれた。農業戸籍と非農業戸籍の夫婦の間の子どもは母親の戸籍に従うこととなる。つまり、戸籍をまたいだ結婚は子供に不利な状況をもたらす仕組みが仕込まれていて、異なる戸籍同士の結婚を妨げてきた。農業戸籍の人が都市戸籍を得られるのは例外的なケースにとどまり、大学に入学するか、軍隊に入って一定の地位まで昇進するかに限られていた。最近では農地の収用に応じた農民には都市戸籍を与えるということが行われている。

④中国沿海部の工場では 2004 年までは賃金がとても低かったが、2005 年から賃金が急上昇している。なぜそういうことが起きたのだろうか？

2004 年までの中国の農村には余剰労働力が多くて農業から得られる収入も少なかったの  
で若年層は沿海部の工場の賃金が低くて労働条件が厳しくても喜んで出稼ぎに赴いた。し  
かし、2005 年になると、農村の余剰労働力が以前に比べて少なくなり、特に若年層はあら  
かたすでに出稼ぎしているような状態になった。農業から得られる収入も増えてきたので、  
以前のような低賃金では出稼ぎ労働者が沿海部の工場には来なくなり、賃金が急上昇しは  
じめた。農村の余剰労働力は急上昇した賃金に吸い寄せられていき、今日ではほぼ枯渇した  
とみられる。

⑤中国の都市部の企業で、病気になった従業員や定年を迎えた従業員の生活を支える仕組  
みは、かつて（1980 年代以前）と今（1990 年代後半以降）とではどのように変わったか。

1980 年代まで中国には養老年金保険や医療保険の仕組みは存在せず、もっぱら企業が社  
会保障を代行していた。すなわち、企業は定年を迎えた従業員がそのまま企業内の住宅に住  
み続けることを認め、退職後の年金に相当する手当を支給してきた。また、従業員や定年後  
の元従業員が病気になった場合は企業内の病院などで診療を受けることができ、そのコス  
トも企業が負担してきた。1990 年代後半以降、このような仕組みが改革され、社会保険制  
度が整備された。企業と従業員個人が保険料を出して医療保険や養老年金保険の制度が運  
営され、病気になった場合は社会の医療保険から、定年後は社会の養老年金保険から給付を  
受ける。

⑥技術の「キャッチアップ」と「キャッチダウン」とはどういう意味か。

キャッチアップとは発展途上国が先進国の技術を導入したり、あるいは自ら先進国が持  
っているのと同等の技術を開発し、そうした努力によって先進国との発展水準の差を詰め  
ようとすることを指す。中国では 1950 年代のソ連からの技術導入、70 年代以降の西側から  
のプラント導入、さらに改革開放期の外資導入などはいずれもキャッチアップの試みとい  
える。一方、キャッチダウンとは、先進国の技術をもとにしながらも、それを途上国の社会

的條件、所得水準に適應させるために換骨奪胎するやうな技術進歩のことを指す。中国では1960年代からの炭安、2000年代のゲリラ携帯電話など、そのやうな技術の例にも事欠かない。

⑦1990年頃の中国は輸入関稅率が平均で43%だったが、實際に輸入にかかった関稅は平均すると輸入額の7%程度だった。こんなに大きな開きが出たのはなぜだろうか。

經濟特區に輸入される材料や機械に対しては輸入関稅が免除されたし、委託加工のための材料や機械も関稅免除であった。こうした関稅免除の輸入が5割以上を占めた時期もあるため、表向きの平均関稅率は高いが、實際に輸入にかかっている平均関稅率を調べるとそれよりも大幅に低いという事態になった。